

委員会等の会議録

1 会議名	第3回 愛南柑橘営農環境改革推進協議会	
2 議題	(1) アンケート結果報告について (2) プラン骨子(案)について (3) 今後のスケジュールについて	
3 開催日時	平成28年11月30日(水) 14時00分から17時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁 2階 第1会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	吉村 克己、原田 達也、河野 仁、吉田 浩、小野山 純平、 孝野 覚也、酒井 眞理子、山本 哲也、和家 重富、山田 聡、 松田 昌治、西崎 梅一、木村 勝彦、藤田 重徳	
7 担当所属	所属名	農林課
	担当職員 (職・氏名)	係長 近平 高宜
	所属名	農業支援センター
	担当職員 (職・氏名)	JA えひめ南 南宇和支所 源 良行 JA えひめ南 南宇和支所 上田 智之
8 その他の 出席職員	所属名	いよぎん地域経済研究センター(IRC) ※本事業の委託者
	出席職員 (職・氏名)	主席研究員 黒田 明良 主任研究員 灘野 由子
	所属名	愛媛県南予地方局
	出席職員 (職・氏名)	技師 矢野 貴大
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
吉村課長	(開会あいさつ)
(IRC)灘野氏	<p>(1) アンケート結果報告について</p> <p>アンケート回収に協力をいただいた謝辞を述べた後、柑橘営農に関する生産者意向調査結果の概要について調査結果を説明。要点は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率は58.2%。年齢別構成割合は対象農家の構成割合とほぼ同じある。統計数値から見て河内晩柑の栽培面積と生産量では70~90%をカバーしていると思われる。 ・高齢化が進み将来的に生産者の減少、栽培面積の縮小が見込まれるが、人手不足は限定的である。 ・多くの生産者に後継者がいないものの、土地の活用に対しては消極的である。 ・遊休農地となった理由は、立地条件が悪いなどの「土地」の問題と、高齢や後継者不在などの「人」の問題が半々 ・今後の意向はおおむね現状維持だが、若年者における規模拡大や加工場の共同利用、販路開拓、6次産業化に対する意向はその他の年代に比べて高い。 ・「河内晩柑」での規模拡大意向が高い。
吉村課長	<p>困っていることで「鳥獣の被害」が多いですが、具体的にはどういう被害でしょうか。委員の皆様から教えていただけないでしょうか。</p>
和家委員	<p>以前はイノシシにデコポンを食べられる程度でしたが、今はシカに河内晩柑の成木の皮を食べられます。</p>
藤田委員	<p>水田をワイヤーメッシュで囲むことを先行してされたため、樹園地が遅れたということですか。</p>
和家委員	<p>和口地区では面積が広すぎて予算がかかるためできません。</p>
吉村課長	<p>平山地区は効果が出ていますか。</p>
河野委員	<p>防護柵でイノシシを囲っている状態で、内側で被害が出ているようです。</p>

和家委員	入ってはいけないところに入っていますね。
河野委員	個人個人で園地を囲った方が、自分の畑として面倒をよく見るのではないのでしょうか。
藤田委員	地区で見回りは行っていないのでしょうか。
河野委員	距離が長いですし、全体が広いため行っていません。
吉村課長	去年から、猟友会にお願いして集中的に捕っていただく形でしたが、今は柑橘農家も合わせて、くくりわなで守るということもやっています。やはり自主的な対応もやっていただければ有り難いです。ワイヤーメッシュの国庫事業については個人のみでは補助の適用とならないので、複数人でブロック分けして行う方法もあります。
吉田委員	町単独補助のように個人の場合は緊急性があるところなのでエリアごとに実施してほしいです。
吉村課長	緊急性があるところは要望してほしいと思います。
木村委員	鳥獣害ではなく、カミキリムシの被害が大きいです。徹底的に捕獲しようとして、かつては6月から10月の間に300匹を捕獲したことがあります。今年は150匹捕獲した。消毒していますが効きません。放置園から飛んでくるのではないのでしょうか。
和家委員	根元に巻くネットがあります。活用してみてもどうでしょうか。
原田委員	(河内晩柑の商品名) 11 ページの商品名の統一は、予想に反して「統一する必要がない」が多いように思います。今は良いですが、10～20年後には統一するべきではないかと思っています。これは意外な結果でした。たびたび市場に行きますが、商品名が多すぎて市場も混乱していると聞きます。これをみると共選の方が統一する必要がないということで意外です。
吉村課長	この事業を始める前は、目的の一つとして名称統一もありま

	<p>した。10年経ってどうしても苦しくなったときに統一するという話もあります。今は「愛南産」の名称をそれぞれの商品名の前につけて、愛南町を売り込むことが良いのではないかと考えています。皆さんに強制的にやってくれとは言えませんが、案としてはプランに入れて行きたいと考えています。</p>
木村委員	<p>変えなくて良い理由は聞いていませんか。</p>
吉村課長	<p>聞いていません。</p>
木村委員	<p>個人的には、河内晩柑より愛南ゴールドの方が良いと思います。</p>
孝野委員	<p>お客が「美生柑はないか」と聞いてきます。松山辺りで「美生柑もどき」が多く出回っています。マルエムにはしっかり管理してほしいです。愛南ゴールドは広報誌にまで載せて町の人が決めた名前です。今ではいくらかなじんできた感もあります。</p>
吉村課長	<p>愛南ゴールドは町が決めましたが、使わなければならないというわけではないです。町が販促活動を行うときは「愛南ゴールド」の名称を使っています。</p>
吉村課長	<p>(遊休農地) 6ページの遊休農地となった理由で「土地の立地条件が悪いため」とありますが、どのようなところが悪いのでしょうか。聞かせてください。</p>
河野委員	<p>平山地区でいうと、日当たりが悪いところが遊休農地になっています。</p>
藤田委員	<p>20ページで遊休農地を活用とありますが、遊休農地は土地条件が悪いので活用できる場所は少ないのではないのでしょうか。</p>
吉田委員	<p>条件が悪くて耕作できない「耕作不能地」を再生するのではなくて、条件が良いけれども遊休農地になっているところを再生すべきだと思います。そのためにも農地を色分けしたマップを作ってはどうか。</p>

藤田委員	農地情報を積極的に出す仕掛けがいます。
(IRC) 灘野氏	<p>(2) プラン骨子(案)の検討について</p> <p>資料「愛南柑橘営農環境改革プラン体系図(案)」を説明。要点は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系図の見方は、左から右に、将来像から取組の展開方向、事業の方向、取組内容と大きなものから具体的な内容へと展開する形式となっている。 ・基本目標は、個別の事業の目標値ではなく、全体が達成できた場合の期待できる、あるいは目指す数値である。後で確認できるように農林センサス等の公表されるデータとしている。
(農業支援センター) 源氏	<p>(基本目標について)</p> <p>「柑橘耕地面積 455ha」とありますが、どういう数値でしょうか。400ha、500ha と丸めてはどうでしょうか。</p>
(IRC) 灘野氏	この数値は、現状の 440ha に優良園地 10ha、遊休農地を活用した加工用柑橘の栽培 5ha を見込んだ数値です。
原田委員	「平均年収 1,000 万円以上」とありますが、表現を売上としてはどうでしょうか。
(IRC) 黒田氏	農林センサスでは「販売額」のため「売上げ」となります。愛南町作成の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の所得指標 566 万円を所得率 60%程度と想定して販売額(売上げ)1,000 万円としました。
吉田委員	市場出荷する人であれば市場が手数料を引いた残りが売り上げになるので、所得でも良いと思います。個人(法人)で販売している場合は、諸経費を除くと所得率はかなり低くなります。単純な販売額では、1,000 万円を超える農家は多いですが、所得でみるとどうでしょうか。
(IRC) 黒田氏	検証をする場合に所得では分かりませんので、表現は売上げにしたいと思います。

吉田委員	若い人が目指す目標として、売上 1,000 万円というものは分かりやすく良いのではないのでしょうか。
木村委員	基本目標に時間的な目標はないのでしょうか。
(IRC) 灘野氏	10 年先を目標として計画します。
吉村課長	この数値は維持がメインだとは思いますが、検証の仕方がどうなのでしょう。期間も必要になってくると思いますが、5～10 年後に迎えようとする数値としての設定だとも思いますが。
原田委員	5～10 年ぐらいの 2 回ぐらいで検証したらどうでしょうか。
吉村課長	この協議会を継続して行い、検証していくことを考えています。
木村委員	センサスは 5 年ごとに実施されますか。
吉村課長	5 年ごとの実施です。
木村委員	同じベースでやれば伸びたかどうか比較はできると思います。
(IRC) 黒田氏	センサスの販売額は農業一本になっているので、柑橘だけでは分かりません。そのため、販売額が大きいものとして柑橘以外では畜産で、水稲は少なく、野菜も少ないと想定して計上しています。その辺の想定でしか分かりませんので、計上の方法を一元化して、比較する必要があると思います。
木村委員	確定申告を見させてもらえないものですか。
吉村課長	確定申告を見ることはできません。1000 万円は若い世代から見ると目標数値として良いのではないのでしょうか。
山本委員	農業所得の 1,000 万円は低いのではないのでしょうか。
松田委員	共選からすると、1,000 万円は低いかなと思います。

吉田委員	所得率は5、6割くらいでしょうか。個人出荷となると販売価格は高くなりますが、いろいろ経費が掛かるので手取りは低くなります。
(IRC)黒田氏	所得を基準にすると検証のしようがないです。売上げであれば、センサスで販売額として出ているので何とか検証できると考えます。そのため売上げという表現を使用しました。
(農業支援センター)源氏	検証する必要があるのでしょうか。
吉村課長	実施する中でうまくいっていないのなら、手入れが必要などの判断ができると思います。
(農業支援センター)源氏	達成したかの検証について、収益については推測になるのでしょうかから、この程度の表現で良いとは思いますが。この計画が活気づいた結果が分かれば、10年後の目標としては良いのではないかと思います。
吉田委員	所得を言いたくなるような環境をつくるのはどうでしょうか。
吉村課長	アンケートの中でやってしまうという方法もあると思います。例えば無記名といった、そういう方法もとれると思います。
(IRC)黒田氏	今回のアンケートでも所得は難しいとのことで、質問から外した経緯もあります。同じセンサスなので、相対的な比較はできるとは思います。そのため源さんが言われたような形の推測で構わないと思います。
吉村課長	一応、平均売上・販売額で1000万円、48経営体で計上したいと思います。耕地面積の内訳についてはどうでしょうか。
(IRC)灘野氏	モデル園地が10ha、加工用5haであります。その合計で15haとしています。
吉村課長	450haに丸めたので良いと思います。

<p>(IRC) 灘野氏</p>	<p>(I 担い手の確保について) 個別に伺いたいと思います。1の担い手の確保について意見ををお願いします。</p>
<p>小野山委員</p>	<p>町は新規就農者を受け入れるための受皿を用意することはできないでしょうか。受入先(農家)の確保や新規の方が扱えるような農地の確保など、新規就農者の受入れを考えています。</p>
<p>吉村課長</p>	<p>政策としては里親制度が考えられます。これはプランの取組に掲げています。</p>
<p>小野山委員</p>	<p>住むための住宅などはいかがでしょう。</p>
<p>吉村課長</p>	<p>企画財政課で空家対策の施策は行っています。里親制度などは、構築するのであればその延長に可能性としてあります。定期勉強会など、経営や県も合わせてそういう枠組みができれば、参加者を募るような取組が十分できると思います。</p>
<p>西崎委員</p>	<p>将来的には遊休地 29ha を規模拡大の希望 27ha で活用するなどありましたが、新規も含めて「こういう農地があります」という情報窓口がないと農地はさっぱり動きません。窓口がいるのではないのでしょうか。</p>
<p>吉村課長</p>	<p>まず、町が考えているのが、農業支援センターがHPを立ち上げ、農地や人材のバンクに繋がるものを情報発信することを考えています。将来的に貸したいとか、そういう相談窓口を農業支援センターの拡充で考えています。もう一つは、就職支援センターに仕事先や内容が確認できないか、もし季節アルバイトとか、経験があるとか、意欲的なものとか聞取りをして、HPに出していきたいと考えています。</p>
<p>西崎委員</p>	<p>新規就農者でも「土地は空いていませんか」など、よく相談を受けることがあります。</p>
<p>吉村課長</p>	<p>柑橘だけではなく、野菜とかそういうものもイメージを持っています。</p>

木村委員	農業支援の HP は全体にオープンにするのですか。
吉村課長	全体を対象に考えています。
木村委員	不動産関係の方が見て利用したら困るとか、そういうことはないでしょうか。
吉村課長	実際には個人情報であり、売り買いは個人間の話なので、内々で動けると考えています。
原田委員	新規就農者として毎年2人とありますが、その辺りの可能性はどうでしょうか。
吉村課長	計算上は2名になっています。現状は、親元就農のパターンが多く、IターンやUターンの方もカウントとして考えています。
西崎委員	奨学金はないのでしょうか。
吉村課長	農業大学校で研修を受けた場合など 150 万円の補助があります。
西崎委員	町のものもあれば良いのですが。将来一般学校に行っても、愛南町に帰ってきたら戻さなくて良いといったものなどです。
吉村課長	今あるのは医学部を対象としたものです。農業の場合は青年農業者制度があるので、それはちょっと難しいと思います。
河野委員	「雇用労働力の確保」について、リクルート事業で、質の高い人材を育てるとありますが、働く人の個人差が大きいです。
吉村課長	個人差は前から聞いています。就職支援センターも問題点としてあげています。「農家さんが求めているものはこうだよ」と言ってはいますが、例えば、農家の方としては対象労働対価については考えてほしいところです。
河野委員	できない人を扱うのは大変です。町の方で支援していただき

	<p>ながら、1か月ぐらいかけてじっくり育てていくことはできないでしょうか。</p>
吉村課長	<p>目安を決める期間は、一人当たり15万など、そういう案で良いのでしょうか。又は3分の1など、もし今の意見でほかにあればお願いしたいと思います。検討はさせていただきます。</p>
松田委員	<p>青年就農給付金制度の準備型を町内で使えるのでしょうか。短期間ではなく2年というところではどうでしょうか。</p>
藤田委員	<p>準備型は、制度上は労働力ではなく、研修としての位置付けなので、そういう使い方は難しいかもしれません。</p>
木村委員	<p>人を受け入れるときに面接はしないのでしょうか。</p>
吉村課長	<p>できれば面談をしてくださいなど、そういうのは必要かと思っています。HPの予算化も考えています。また農業支援センターについても今後の状況によっては臨時職員を雇うことも考えています。進めるものは進めたいと考えています</p>
(IRC)灘野氏	<p>(Ⅱインフラ整備の推進、Ⅲ6次産業化・ブランド化の確立について) 全体で意見をいただけますでしょうか。</p>
木村委員	<p>誰が、いつまでに、どこで実施するのでしょうか。</p>
(IRC)灘野氏	<p>骨子が固まったあとに、5W1Hを整理しタイムスケジュールを立てたいと思います。</p>
吉村課長	<p>これをベースに座談会を行う予定です。それが終われば、次の段階で、3月に委員の皆さんの前で正式なプランを提示したいと思います。</p>
吉村課長	<p>モデル園地の造成について他の水田と競合しないような場を樹園地に整備したいと考えています。ある程度広い範囲で、皆さんから提供していただける場所があれば、園地にできるかどうかの検証も含めて、また、ほかの品種についても平地の中でどうすれば良いのかなど、県の意見も伺いながらと考えていま</p>

	す。
原田委員	水田に施設やハウスを建てて、紅まどんなを試験的に入れてみてはどうかと考えていますが、どうでしょうか。
(地方局)矢野氏	やってみないと分かりません。即答はできません。
吉村課長	補助はあるのでしょうか。
薬師寺氏	県単独事業はあります。
吉村課長	水田の樹園地化は取り決めを持ってやらないといけないと思っています。そのため、農業委員会としばりを作った上で実施すべきと考えています。また、一次加工場について記載していますが、最小限、これがどのぐらいのものなのかということもあります。何を対象としたいのか、その辺りを固めた上で来年から調整して、早めにそういう施設を作るという方向で考えたいと思っています。
松田委員	加工場の運営は誰が行うのでしょうか。
吉村課長	農業者が主体でやれないかとは考えています。いろいろところで、公社という手もあるのですが、まずはどうするのか、費用対効果とやる価値があるのかといった思いはあります。建物は給食センターなどあるものを利用する考えです。できれば農水業一緒ということも考えています。加工に対する最終判断や意向は確認する必要があると思っています。マルエムは加工を行っています、どうされているのでしょうか。
河野委員	マルエムはえひめ果汁に委託しています。
和家委員	濃縮還元として、必要な分だけ買い戻して、それを販売しているだけです。
吉村課長	ジュースを絞る時期は、公社で経営した場合には行政が主導となります。それであれば、維持管理に関する儲けはおりません。それと、付加価値として、機能性(オーラプテン)の関係もあります。現在、県から情報をいただきながら検討したいと考

	<p>えています。現在のところは独自の機能性表示は難しいと考えています。</p>
(地方局)矢野氏	<p>今、認知症に効果があるか実験しているところです。実証実験が終わるのは3月ぐらいと聞いています。発表は6月ぐらいになるとのことです。</p>
原田委員	<p>分析ではオーラプテンは果皮にあり、果汁にはなかったと聞いていますが。</p>
(地方局)矢野氏	<p>全然ないわけではありません。愛媛県産業技術研究所では果汁にも入っていたと聞いています。</p>
吉村課長	<p>農業支援センターが調査した結果、ないということでしたが、県の調査では多少はあるということなのですね。</p>
(IRC)灘野氏	<p>(3) 今後のスケジュールについて 配布資料4「第2回座談会」、5「今後のスケジュール」に基づいて説明。要点は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回座談会の開催。12月19日、20日とし、20日には講師にやのくにこさんを迎えて6次産業化についての講演会を実施する。また、19日には南宇和高校とのディスカッションも予定している。 ・第4回協議会を平成29年2月の中下旬に、第3回座談会を3月上旬に行う予定である。協議会の委員の皆様にはあと1回協議会に御出席していただくこととなることを説明して、了承を得た。
木村委員	<p>オーラプテンを取り込みやすい料理があれば、ぜひお願いしたいです。</p>
小野山委員	<p>ピール以外が良いと思います。</p>
松田委員	<p>料理以外で使うことができれば良いですね。</p>
吉村課長	<p>(4) その他 県が取り組んでいる農業遺産について説明。現在、南予の4市町で動きがあり、主に急傾斜地と南予用水の関係地で、愛南</p>

	<p>町についてはあまり関係があるわけではない。日本農業遺産は、一次審査が終わった段階である。それが通れば3月に登録が終わる。平成29年度からは「世界農業遺産」として登録手続が始まる。登録されれば、愛南町もそれを使えることなど。</p>
--	--

(閉会)